

一 問一 (a) 心底 (b) 胸 (c) 悪態

問二 ウ

問三 真子が、『祈る少女』の絵をおだやかな気持ちで見つめているということ。(34字)

問四 イ

問五 ア

問六 ウ

問七 制御不能な炎

問八 オ

二 問一 (a) 役割 (b) 支(え) (c) 基本

問二 ことば

問三 X エ Y イ Z ア

問四 原因

問五 エ

問六 本質主義

問七 本質主義

アイデンティティをその人にあらかじめ備わっている属性のようにとらえて、人はそれぞれの属性にもとづいてコミュニケーションをするという考え方を構築主義

アイデンティティを、他の人とことばを使って関わり合うことでつくり続けるものだとみなす考え方

問八 私たちは、身近な人との関わり合いの中で、長い間繰り返し同じような自分を表現していくことでそれが「自分らしさ」だという感覚を確立していく。(68字)

問九

私は、場面ごとに異なるアイデンティティを生きているということが良いことだと思います。なぜなら、その方が想像力が豊かになると思うからです。

私は、家では何でもよく話すおしゃべりな子だと自分では思いますが。でも、学校ではどちらかというとおとなしくて真面目な子、という印象だと思えますし、友達にもそう言われます。どちらが良いとか悪いとかではなく、両方のアイデンティティを持っていると、両方の立場や気持ち

ちが分かるので、どちらの立場にいるときも相手の気持ちを想像することが出来ます。

だから私は、場面ごとに異なるアイデンティティを生きることが良いことだと思えます。